

FIORANO[®] s o f t w a r e

FioranoMQ[™] のインストール

対象バージョン:9.0.1



はじめに

この文書は、FioranoMQ のインストール方法および起動方法について説明するものです。

1. システム要件 1 1.1 基本的な要件 1 1.2 JRE について 1 1.3 サンブル ブログラムの稼動環境と JDK. 1 1.4. ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー)の数について (Unix 版) 1 2 インストール手順 1 2 インストール手順 1 2 インストール方法のタイプ 1 2 インストール方法のタイプ 1 2 1 インストール方法のタイプ 1 2 2 Unix 版のインストール 1 2 3 Windows 版 Linux 版 Solaris 版のインストール 1 3 インストール完了後のディレクトリ内容 1 4 ライセンス ファイルのインストール 1 4 ライセンス ファイルのインストール 1 4 ライセンス ファイルのインストール 1 4 ライセンス マネージャによるコピー 1 4.1 ライセンス マネージャによるコピー 1 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 1 4.3 マキンスの確認方法 11 4.3 マキンスの確認方法 11 4.3 マキンスの確認方法 11 5 FioranoMQ の起動 2 6 FioranoMQ の起動 2 6.1 環境変数の設定 2 6.3 FioranoMQ サーバーのシャッドダウン 2 6.4 Studio の起動 2 6.4 I FioranoMQ サーバーのログイン 2 6.5 サンブル プログラムの実行 2		
1.1 基本的な要件 12 JRE について 13 サンブル ブログラムの稼動環境と JDK 14 ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版) 14 ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版) 14 ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版) 2 インストール手順 14 ファイル レカ法のタイブ 14 ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版) 15 ローン・ 2 インストール手順 15 ローン・ 15 ローン・ 15 ローン・ 2 インストールテアル 15 ローン・ 15 ローン・ 15 ローン・ 3 インストール売了後のディレクトリ内容 15 ローン・ 15 ローン・ 15 ローン・ 4 ライセンス ファイルのインストール 15 ローン・ 16 ローン・ 17 ローン・ 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 ローシー 16 ローシー 17 ローシー 4.3 ライセンス マネージャによるコピー 16 ローシー 17 ローション・ 17 ローシー 5 FioranoMQ の足動 22 ローシー 16 ローシー 17 ローシー 5 FioranoMQ の起動 22 ローシー 17 ローシー 18 ローシー 6 FioranoMQ の起動 22 ローシー 22 ローシー 22 ローシー 6.1 環境変数の設定 22 ローシー 22 ローシー 22 ローシー 6.1 環境変数の設定 22 ローシー 22 ローシー 22 ローシー 6.1 環境変数の設定 22 ローシー 22 ローシー 22 ローシー 6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン 22 ローシー 22 ローシー 22 ローシー	1. システム要件	3
1.2 JRE について	1.1 基本的な要件	3
1.3 サンブル プログラムの稼動環境と JDK	1.2 JRE について	3
1.4. ファイル ディスクリブタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版) 4 2 インストール手順 6 2.1 インストール方法のタイプ 6 2.2 Unix 版のインストール 6 2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール 6 3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 15 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 22 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーのの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.2 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.2 サンブル ブログラムのコンバイル 24	1.3 サンプル プログラムの稼動環境と JDK	4
2 インストール手順 6 2.1 インストール方法のタイプ 6 2.2 Unix 版のインストール 6 2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール 6 3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 12 4.1 ライセンス ファイルの何ンストール 12 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 16 5 FioranoMQ のアンインストール 12 6 FioranoMQ の起動 22 6.1 環境変数の設定 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 22 6.5 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.2 サンブル ブログラムのコンバイル 23	1.4. ファイル ディスクリプタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版)	4
2 インストール手順 5 2.1 インストール方法のタイブ 5 2.2 Unix 版のインストール 5 2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール 6 3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 15 4 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 11 4.3. マシン情報 16 5 FioranoMQ の足動 22 6 FioranoMQ の起動 22 6.1 環境変数の設定 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.1 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.2 サンブル ブログラムのコンバイル 22		
2.1 インストール方法のタイブ	2 インストール手順	5
2.2 Unix 版のインストール	2.1 インストール方法のタイプ	5
2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール 12 3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 15 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンス の確認方法 17 4.3. マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 22 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 22 6.5 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.1 サンブル ブログラムの実行 22 6.5.2 サンブル プログラムの実行 23 6.5.2 サンブル プログラムの実行 23 6.5.2 サンブル プログラムの実行 23 6.5.2 サンブル プログラムの実行 23 6.5.2 サンブル プログラムのコンパイル 24	2.2 Unix 版のインストール	5
3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 15 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 15 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 18 6 FioranoMQ の起動 22 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 23 6.5 サンプル プログラムの実行 21 6.5.2 サンブル プログラムのコンパイル 25	2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール	6
3 インストール完了後のディレクトリ内容 12 4 ライセンス ファイルのインストール 15 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 16 5 FioranoMQ のアンインストール 16 6 FioranoMQ の起動 27 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンブル プログラムの実行 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29		
4 ライセンス ファイルのインストール 15 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 18 6 FioranoMQ の起動 27 6.1 環境変数の設定 27 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンプル プログラムの実行 22 6.5.1 サンプル プログラムの実行 23 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 24	3 インストール完了後のディレクトリ内容	
4 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3 マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 2' 6.1 環境変数の設定 2' 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 2' 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 2' 6.4 Studio の起動 2' 6.5 サンプル プログラムの実行 2' 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 2' 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 2'		45
4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルター 16 4.2 ライセンス マネージャによるコピー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3. マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 18 6 FioranoMQ の起動 21 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーパーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーパーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンプル プログラムの実行 22 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 23 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 25		
4.2 ライセンス マネージヤによるコビー 16 4.3 ライセンスの確認方法 17 4.3. マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 21 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンプル プログラムの実行 22 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 23 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 25	4.1 フイセンス ファイルの種類とフイセンス フォルター	
4.3 ライセンスの確認方法	4.2 ライセンス マネージャによるコピー	16
4.3. マシン情報 18 5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 21 6.1 環境変数の設定 22 6.1 環境変数の設定 22 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンプル プログラムの実行 27 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29	4.3 ライセンスの確認方法	17
5 FioranoMQ のアンインストール 19 6 FioranoMQ の起動 21 6.1 環境変数の設定 21 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.4 Studio の起動 22 6.5 サンプル プログラムの実行 22 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 23 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 25	4.3. マシン情報	
6 FioranoMQ の起動	5 FioranoMQ のアンインストール	
6 FioranoMQ の起動		
6.1 環境変数の設定 21 6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン 22 6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンプル プログラムの実行 27 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29	6 FioranoMQ の起動	21
6.2 FioranoMQ サーバーの起動 22 6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン 22 6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンプル プログラムの実行 27 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29	6.1 環境変数の設定	21
6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン 22 6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンプル プログラムの実行 27 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29	6.2 FioranoMQ サーバーの起動	
6.4 Studio の起動 23 6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン 24 6.5 サンプル プログラムの実行 27 6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動 27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル 29	6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン	
6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン	6.4 Studio の起動	23
6.5 サンプル プログラムの実行	6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン	24
6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動27 6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル	6.5 サンプル プログラムの実行	27
6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル	6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動	27
	6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル	
6.5.3 サンプル プログラムの実行	6.5.3 サンプル プログラムの実行	



1. システム要件

1.1 基本的な要件

次の表に、FioranoMQ の稼動に必要なシステム要件をまとめてあります。対象バージョンは、FioranoMQ 9 です。

コンポーネント	システム要件				
プラットフォーム (OS)	FioranoMQ のサーバーは、JRE 1.5 以降がサポートされている OS であ				
	れば稼動することができます。				
	代表的なプラットフォームには以下のものがあります。				
	Windows				
	・ Linux (Red Hat など)				
	• HP-UX				
	• IIBM AIX				
	Sun Solaris				
ハード ディスク (インストールに必要な容量)	300 MB				
	FioranoMQ 2008 のインストール時に、テンポラリ ディレクトリに必要なフ				
	ァイルを展開します。このテンポラリ ディレクトリも含めて、約 300MB の				
	空きディスク容量が必要となります。				
	インストール終了時に、テンポラリ ディレクトリは削除されます。				
運用時に必要となるハード ディスク容量	中規模のインテグレーション : 約 500 MB				
	FioranoMQ 2008 のインストール容量 (約 200MB) に加えて、キュー、ト				
	ピック、ログなどのためにディスク スペースが必要となります。これに必要				
	となるディスク容量は、メッセージ サイズ、メッセージ数、メッセージングの				
	形態 (永続化などのオプション設定)、ロギングの設定などによって異なり				
	ます。上記のディスク容量はあくまでも一つの参考値としてお考えください。				
メモリ	Windows、UNIX、Linux システムともに :				
	● 128 MB RAM (最少)				
	 256 MB RAM 以上 (中規模インテグレーションでの推奨) 				
	が必要となります。				
CPU	● 200 MHz CPU (最少)				
	● 400 MHz 以上 (推奨)				

1.2 JRE について

FioranoMQ のサーバーおよびツールの稼動には、JVM (Java Virtual Machine) が必要です。Widows 版の FioranoMQ には、Sun JRE (version 1.5.0_16) が同梱されています。通常の Windows 版のインストールではこの JRE が使用される よう設定されますので、ユーザー側で JRE のバージョンについて特に考慮する必要はありません。

もちろん、他の JVM をお使いいただくことも可能です。その場合、環境変数の設定が必要となります。詳細につきましては、

『2.2 Unix 版のインストール』および『6.1 環境変数の設定』を参照してください。

Unix / Linux 版には、JRE が同梱されていません。サン・マイクロシステムズなどのサイトから JRE をダウンロードし、イン ストールしておいてください。JRE のバージョンは、1.5.0 以降のものを使用してください。

クライアント プログラムは、Java、C、C++、C# など様々な言語で開発することができます。Java で記述されたクライアント の稼動には JVM が必要となりますが、JRE 1.5 以降の JVM を使用してください。

1.3 サンプル プログラムの稼動環境と JDK

FioranoMQ には、多数のサンプル プログラムが用意されています。サンプル プログラムは、Java で記述されているため、 実行には JVM が必要となります。

また、サンプル プログラムを実行するためには、事前にコンパイルする必要があります。コンパイルには JDK が必要となり ますが、FioranoMQ には同梱されていません。サン・マイクロシステムの web サイトなどからダウンロードしてください。 http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp

JDK のバージョンは、JRE のバージョンと適合している必要があります。Windows 版においてデフォルトの JRE (FioranoMQ のインストール時に展開された JRE) を使用する場合は、JDK 1_5 (バージョン 5) を使用してください。

1.4. ファイル ディスクリプタ (ファイル ハンドラー) の数について (Unix 版)

Unix / Linux 上で FioranoMQ を実行する場合には、ファイル ディスクリプタ (ファイル ハンドラー) の数をデフォルト値よ りも増やす必要があります。

推奨值:10,000

FioranoMQ の起動スクリプトは、この値を自動的に変更するよう作成されています。ただし、起動スクリプトはルート権限などのシステム パラメータの変更権限を持ったユーザー アカウントのもとで実行する必要があります。

2 インストール手順

2.1 インストール方法のタイプ

FioranoMQ のインストールは、プラットフォームによって次の 2 種類の方法に分かれています。

- Wizard によるインストール: Windows 版、Linux 版、Solaris Intel 版
 ダウンロードしたインストーラ ファイルの名前は、fmq9.0.1_bXXXXe または fmq9.0.1bXXXX_linux.bin
 もしくは fmq9.0.1bXXXX_solaris_intel.bin となっています。
 bXXXX は、ビルド番号となっています (例 fmq9.0.1_bXXXx.exe)。
- tar ファイルの展開: Unix 版 ダウンロードしたインストーラ ファイルは、fmq9.0.1bXXXX_gnu.tar.gz となっています。 bXXXX は、ビルド番号となっています(例 fmq9.0.1bXXXX gnu.tar.gz)。

2.2 Unix 版のインストール

Unix 版のインストーラ ファイルは、tar.gz 形式となっています。次の手順にしたがってインストールしてください。 ファイルの解凍には、GNU Tar ツールを使用することを推奨します。他の Tar ツールの場合、問題を起こす可能性がありま す。

1. JRE のインストール

Unix 版には、JRE が同梱されていません、サン・マイクロシステムズなどのサイトから JRE をダウンロードし、インストール しておいてください。JRE のバージョンは、1.5.0 以降のものを使用してください。

2. インストール ディレクトリの選択

FioranoMQ をインストールするディレクトリに インストーラ ファイル (fmq9.0.1.bXXXX_gnu.tar.gz) を置いてください。任意のディレクトリにインストールできます (例:/usr/home)。

3. tar ファイルの解凍

gz から tar に解凍するには、次のコマンドを実行してください。

gunzip < fmq9.0.1bXXXX_gnu.tar.gz | tar xvf gunzip < fmq9.0.1bXXXX_gnu.tgz | tar xvf -</pre>

GNU の tar ツールを使用する場合には、z オプションを使用できます。 gtar xvzf fmq9.0.1bXXXX_gnu.tar.gz gtar xvzf fmq9.0.1bXXXX gnu.tgz

tar 形式を解凍すると、次のディレクトリが FioranoMQ ディレクトリとして作成され、その下にファイルが展開されます。 <選択したディレクトリ>/Fiorano/FioranoMQ



4. fiorano_vars.sh の編集

\$FIORANO_HOME にある fiorano_vars.sh に定義されている環境変数を、インストールした環境に適合するよう編集します。

FIORANO_HOME

<インストールしたディレクトリ>/Fiorano/FioranoMQ

JAVA_HOME

[注意] Unix 版の FioranoMQ には、JRE が同梱されていません。ユーザーがインストールした JRE のディレクトリを指定してください。

2.3 Windows 版、Linux 版、Solaris 版のインストール

Wizard によってインストールします。

以下に、Wizard による手順とデフォルトのパラメータ設定について説明します。基本的には、デフォルトで選択されているパ ラメータや項目を変更しなければ、OK です。

1. Wizard の起動

ダウンロードしたインストーラ (exe もしくは bin) を実行します。

Wizard は最初に、インストールしようとする FioranoMQ と同じバージョンの FioranoMQ が既にインストールされているか チェックします。既存のインストールが無い場合には次の画面のように Welcome ページが表示されます。これとは異なる画 面が表示される場合は、既に FioranoMQ の同ーバージョンがインストールされていることを示しています。新たに再インスト ールする場合には、表示された画面にある [remove] を選択してアンインストールを行ってください。その後、再度 Wizard を起動し、インストールを行います。



[Next >] ボタンをクリックしてください。



2. エンドユーザー使用許諾の同意

「エンドユーザー使用許諾」が表示されますので、

[I accept terms of the license agreement]

を選択してください。

[Print] ボタンをクリックすると、「使用許諾契約書」の全文を印刷することができます。

FioranoMQa 9.0.1 - InstallShield \	Mizard	×
License Agree∎ent Please read the following carefully.	; license agreement	
Fiorano	FIORANO END-USER LICENSE AGREEMENT	
Copyright © 1999-2009, Fiorano Boftware Technologies PV i Itand Affiliates All Rights Reserved.	I accept the terms of the license agreement Print I do not accept the terms of the license agreement	
InstallShield	< Back Next > Cance	

3. 使用者名と会社名の指定

任意の名前を指定することができます。

FioranoMQa 9.0.1 - InstallShield Wi	zard	×
Customer Information Please enter your informat	ion.	
Fiorano	Enter a User name and your Company name below.	
	<u>U</u> ser Name: Shigeru Aoshima	
	<u>C</u> ompany Name:	

4. インストール ディレクトリ (フォルダー) の指定

Windows 版では、デフォルトのフォルダーがあらかじめ指定されています。デフォルトのままとしておくことをお薦めします。

C: **YProgram Files YFiorano YFiorano MQ9.0.1** (Windows)

Unix/Linux 版の場合には、デフォルトのインストール ディレクトリを設けておりませんので、任意のディレクトリにインストールしてください (例:/usr/fiorano)。

FioranoMQa 9.0.1 - InstallShield Wizard	×
Choose Destination Location Select folder where setup will install files.	
Fiorano [®] C:¥Program Files¥FioranoMQ9.0.1	<u>C</u> hange

再インストールの場合、このフォルダーが存在している可能性があります。これは、アンインストール時に、ログ ファイルを削除せずに残しているためです。

ポップアップされたダイアログ ボックスで、[Over write] を指定します。ログ ファイルは削除されずに、残ります。不要で あれば、事前に削除しておいてください。

デフォルトのフォルダーとは異なる場所にインストールする場合には、[Change] ボタンをクリックします。表示されるダイア ログ ボックスでインストール先のフォルダーを指定します。

Choose Folder	×
Please select the installation folder.	
<u>P</u> ath:	
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1	
Directories:	
 □ ③ デスクトップ ● → マイ ドキュメント ● → マイ コンピュータ ● → □ - カル ディスク (C:) ● → □ company ● → Documents and Settings ■ → Intel 	4
OK A	キャンセル

5. インストール タイプの選択

インストールのタイプを選択します。

最上段の [Typical] を選択してください。これで、すべてのコンポーネントをインストールすることができます。



6. Program フォルダーの指定

デフォルトの "Fiorano" フォルダーを指定してください。



7. インストールの開始

[Install] ボタンでインストールを開始します。

設定をやり直す場合は、[Back] ボタンで戻ってください。

FioranoMQa 9.0.1 - InstallShield W	fizard	×			
Ready to Install the Program					
The wizard is ready to beg	gin installation.				
Lanana	Click Install to begin the installation.				
FIUPANU	If you want to review or change any of your installation settings, click				
	Back. Click Cancel to exit the wizard.				
Copyright © 1999-2009, Florang Software					
Technologies Put I til and Affiliates All Rights Reserved.					
InstallShield	<u> Sack</u> <u>I</u> nstall Cancel				

インストールが開始され、次のように進捗状況が表示されます。



8. インストールの終了

次の画面が表示されたら、インストールの完了です。

[Finish] ボタンをクリックしてください。

チェック ボックスは、

Yes, I want to View FioranoMQ 9.0.1 Docs. ドキュメントの表示

Yes, I want to Launch Fiorano Studio. Studio ツールの起動

の指定です。

両方とも選択できますが、Studio ツールを完全に機能させるためにはライセンス ファイルのインストールが必要です。 ドキュメントは HTML 版のものを表示するため、既定のブラウザーが起動されます。



インストールが完了しても、FioranoMQ を起動することはできません。	
起動するためには、ライセンス ファイルのインストールが必要です。『4 ライセンス ファイルのインストール』の手順	を
実施してください。	

3 インストール完了後のディレクトリ内容

Widows 版の場合、C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.01 がデフォルトのインストール ディレクトリになって います。Windows 版では、デフォルトのインストール ディレクトリにインストールすることを推奨いたします。

Unix / Linux 版の場合には、デフォルトのインストール ディレクトリを設けておりませんので、任意のディレクトリにインストールしてください (例:/usr/fiorano)。

この章での説明は、Widows 版のデフォルト インストール ディレクトリを基にして説明します。(Unix / Linux 版においてもディレクトリ構造および格納されているファイルは、Windows 版と同等となっています。)





各フォルダーの内容は、次のようになっています。

□ インストール ディレクトリ (¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1)

このフォルダーには、次のファイルが置かれています。

- fiorano_vars.bat: FioranoMQ の稼動環境などの設定ファイル
 - Unix/Linux 版では、fiorano_vars.sh
- Fioranodocs.htm: FioranoMQ の製品ドキュメントのインデックス (英語)
- GettingStartedGuide.htm: Getting Started Guide (英語)
- license.htm : ライセンス使用許諾 (HTML 版)(英語)
- license.pdf: ライセンス使用許諾 (PDF 版)(英語)
- readme.txt: ディレクトリ構造の説明 (英語) この章と同じ内容です。
- Release Notes.htm: FioranoMQ のリリース情報 (新規追加機能、既知の問題点など)
- setup.exe: InstallShield の実行形式 (このファイルを直接実行することはできません)
- uninstall.bat:アンインストール用の bat ファイル

_unistall

FioranoMQ のアンインストールに必要な情報が保持されています。

□ extlib

FioranoMQ で使用する外部ソフトウェア (サードパーティ製品やオープンソース ソフトウェア) のライブラリやソフトウェアが 格納されています。

FioranoMQ 9.0.1 では、54 種類の外部ソフトウェアがそれぞれサブ フォルダーに分けて格納されています。

🛛 fmq

FioranoMQ のカーネル実装となっている Java アーカイブ ファイル (jar ファイル)、コンフィグ ファイル、リソース ファイル、サンプルのクライアント プログラムなどが、以下のサブ フォルダーに分けて格納されています。

- bin : FioranoMg のコンテナを実行するためのスクリプト ファイル (bat ファイルもしくは sh スクリプト)
- docs : 製品の特徴や機能概要を説明しているコンセプトマニュアル (FioranoMQHandBook.pdf)
- docs/API : API を説明したマニュアル。index.html をブラウザーで参照してください。
- lib : ライブラリ
- profiles : コンフィグ設定ファイル
- samples : クライアント プログラムのサンプル ソース
- terminal : FioranoMQ Terminal ツール (fmq-terminal.bat)
- wmt : Web management Tool (FioranoWebManager.html)

framework

Fiorano フレームワーク ライブラリのファイルが格納されています。

- lib : **ライブラリ**
- tools : **ライセンス マネージャ ツール**
- utils : XML 変換ユーティリティ

□ jre1.5.0_16

バンドルされている JRE が格納されています。Unix 版にはバンドルされていませんので、このディレクトリは作成されません。

launcher

サーバーやツール類の起動に使用するスクリプト ファイルが格納されています。

Iicense

ライセンス ファイルを格納します。

Release_Notes_files

リリース ノートが参照しているファイルが格納されています。ユーザーが、このフォルダー内のファイルを直接参照することは ありません。リリース ノートを参照する場合には、インストール フォルダーにある Release_Notes.htm をブラウズしてく ださい。

□ runtimedata FioranoMQ が内部的に参照する実行データ (ログ記録もふくまれます) が格納されます。

🛛 Studio

FioranoMQ の管理ツール Studio 関連のファイルが格納されています。

4 ライセンス ファイルのインストール

4.1 ライセンス ファイルの種類とライセンス フォルダー

ライセンス ファイル (ファイル拡張子: .lic) は、ライセンス マネージャ ツールまたは手動によって、ライセンス フォルダ ーにコピーしなければなりません。

FioranoMQ のライセンスは、次の 2つに大別できます。いずれのライセンスにおいても、ライセンス ファイルを所定のフォル ダーにコピーする必要があります。

評価用ライセンスの場合

評価用ライセンスは、メールに添付されて送られてきます。

ライセンス ファイル名 : fiorano-mq9.lic

コピー先のフォルダー : C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1¥licenses (Windows 版) /home/Fiorano/FioranoMQ9.0.1/licenses (Unix、Linux 版)

正式なライセンスの場合

Fiorano のライセンス ポータル サイトにおいて生成したライセンスを、下の画面で示すように license フォルダーにコピーします。

ライセンス ファイル名: ライセンス ファイルの名前はユーザーの製品購入内容などによって異なります。

ライセンス ファイルの拡張子はかならず .lic になっています。

(また、複数のライセンス ファイルが生成される場合もあります。すべてのライセンス

ファイルを license フォルダーにおいてください。)

コピー先のフォルダー:C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ 2008¥licenses (Windows 版)

/home/Fiorano/FioranoMQ 2008/licenses (Unix、Linux 版)

]アドレス(D) 🛅 C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1¥licenses						
フォルダ ×	名前 🔺	サイズ 種類				
🖃 🦳 Fiorano 📃	🔲 🖻 fiorano-mq9.lic	1KB LIC ファイル				
🖃 🧰 FioranoMQ9.0.1	📲 readme.txt 📃	1 KB テキスト文書				
🛅 _uninstall						
🕀 🚞 extlib		-ライヤンスファイル				
🕀 🧰 fmq						
🕀 🛅 framework						
🚞 GettingStartedGuide_files						
🕀 🛅 jre1 5.0_16						
🚞 launcher						
🚞 licenses						
🛅 Release_Notes_files						

4.2 ライセンス マネージャによるコピー

以下の手順にしたがって、ライセンス ファイルを FioranoMQ のインストール ディレクトリの license フォルダーにコピーします。

1. ライセンス マネージャの起動

次のいずれかの方法によって、ライセンス マネージャを起動します。

Windows の [スタート] メニューからの起動

 $[\partial \Box d \overline{\partial} \Delta] \rightarrow [Fiorano] \rightarrow [FioranoMQ 9.0.1] \rightarrow [Fiorano License Tool]$

スクリプト ファイルによる起動

Widows 版

 $\texttt{C:} \texttt{YProgram Files} \texttt{Fiorano} \texttt{YFiorano} \texttt{MO9.01} \texttt{``framework} \texttt{``tools} \texttt{``License} \texttt{Manager} \texttt{``bin} \texttt{``lm.bat} \texttt{``tools} \texttt{``License} \texttt{``Anager} \texttt{``bin} \texttt{``lm.bat} \texttt{``bin} \texttt{``lm.bat} \texttt{``bin} \texttt{``lm.bat} \texttt{``bin} \texttt{``lm.bat} \texttt{``local} \texttt{`'local} \texttt{''local} \texttt{'$

Unix / Linux 版

%INSTALL_DIR%/framework/tools/LicenseManager/bin/runLM.sh

2. ライセンス ファイルのコピー

[License] メニューのプルダウンから [Import] を選択します。

T	cense Manager		
File	License		
	Import 🔫		Select License Module Name From Drop Down
	Delete		1
	Delete All		
	Request New		
	Machine info	Import を選択	
	Validate License		

ダイアログ ボックスが表示されますので、ライセンス ファイルを指定し、[開く] をクリックします。

置開く						×
参照:	うイセンス			•	3 🕬 📖	
して 最近使ったファイ ル し	⊡ fiorano-r	ng9.lic				
デスクトップ	ファイル名: ファイルタイプ:	fiorano-mq9.lic License Files			-	開く 取消し

ライセンス マネージャにインポートしたライセンス ファイルが表示されます。

T License Manager	×
File License	
⊟ <mark>⊟</mark> Fiorano Licenses	Select License Module Name From Drop Down
🗄 💼 fiorano-mq9.lic 🚤	MQ 🗾
1	

4.3 ライセンスの確認方法

ライセンスマネージャによって、ライセンスを確認することができます。

下図は、ライセンス マネージャの画面を示しています。

🚹 License Manager					×
File License					
🖃 😋 Fiorano Licenses			Select License Module	e Name From Drop Dowi	<u>1</u>
🖻 🖳 💼 fiorano – mg9.lic		FMQ			
 Servers 	ライセンスの有効期限	Product	s	(MQ;9;MQSeries bridge,MS	MQ bridge, Tib
 Adapters 		Туре		Eval	
Tools		Environ	ment		
ライヤンス フォルグ	i _ !-	Source		コンホーネントの選	厌
		CPU		unlimited	
仔仕している		Bind to		anywhere	
ライセンス ファイル	× ×	Issued of	date	2009-3-22	
		Expirati	ion	Wed May 06 00:00:00 JST	2009
		Signatu	re I	302C0214313463556D69F2	2188E90A03E3
			選択されているコンポージ	ネントに対する	
			ライセンス内容の詳細		

ライセンス マネージャを起動すると、通常、上図のように右側のペインに FioranoMQ に対するライセンス情報が表示されま す。ライセンス情報が表示されていない場合は、右上にあるコンポーネント選択のプルダウン メニューからコンポーネントを 選択してください。

評価版ライセンスには、すべてのコンポーネントに対するライセンスが含まれていますので、どのコンポーネントを選択しても 上図と同じ内容の情報が表示されます。

ライセンス情報の各項目の意味は、次の通りです。

Products: 左側のペインで選択したライセンス ファイルによって許諾されている製品コンポーネントの一覧。 評価版ライセンスには、すべてのコンポーネントが含まれています。

Type : ライセンスの種類。評価版の場合は、 Eval と表示されます。

Bind to : ライセンスと実行マシンの結びつきを示しています。通常のライセンスではホスト名もしくは IP アドレスが表示 されますが、評価版の場合はマシンを限定しないため anywhere と表示されます。

Issued date:ライセンスの生成日時。

Expiration: ライセンスの有効期限。評価版ライセンスの有効期限は、生成日から数えて 45 日の間です。

Signature: ライセンス キー

有効期限を確認してください。問題がある場合には、フィオラノ ソフトウェア株式会社あてメールでお問い合わせください。 info jp@fiorano.com

4.3. マシン情報

ライセンス マネージャのメニューから、ライセンスがインストールされたマシンの設定情報を表示させることができます。 [License] -> [Machine info...] を選択すると、マシン情報を示すウィンドウが表示されます (下図を参照)。

M/C info	X
Parameter	Value
Java Runtime Name	Java(TM) 2 Runtime Environment, Standard E
No. Of Processors	2
OS Name	Windows XP
Host Name	YODA
OS Version	5.1
Java Runtime Version	1.5.0_16-602
Java Runtime Vendor	Sun Microsystems Inc.
IP Address 01	210.48.232.46
CI	058

表示される情報には、

- FioranoMQ で使用する Java に関する情報 (通常は、バンドルされている Sun JRE 1.5 で設定)
- インストールしたマシンの IP アドレス (DHCP を使用している場合は、ダイナミックに変更されます)、ホスト名、OS 名、CPU 数など

があります。

5 FioranoMQ のアンインストール

FioranoMQ のアンインストールは、次の3種類の方法で行うことができます。

- インストーラ Wizard から
- Windows の [スタート] メニューから
- スクリプト ファイルの実行

1. インストーラ Wizard によるアンインストール

FioranoMQ がインストールされている状態で Wizard (fmq9.01bXXXX.exe) を実行すると、次の画面が表示されます。 最下段の [Remove] を選択し、[Next >] ボタンをクリックしてください。

FioranoMQ₃ 9.0.1 - InstallShield Wiza	ard		×
¶elcome Modify, repair, or remove th	ne program.		
Fiorano	Welcome to you modify	the FioranoMQ∃ 9.0.1 Setup Maintenance program. This program lets the current installation. Click one of the options below.	
HEN.) Modify	Select new program features to add or select currently installed features to remove.	
) Repair	Reinstall all program features installed by the previous setup.	
	• <u>R</u> emove	Remove all installed features.	
Copyright © 1999-2009, Florano Boftware Terhnologies Put I M and Affiliates All Rights Reserved.			
InstallShield		< Back Next > Cancel	

次の画面が表示され、アンインストールが実行されます。

2. Windows の [スタート] メニューから [Uninstall FioranoMQ 9.0.1] を選択

庙 プログラム(P)	aol	•	- FioranoMQ Terminal
🙆 最近使ったファイル(D) 🛛 🔹	🛅 Fiorano	🕨 🛅 Fiorano SOA 2007 Platform SP4 🔸	🥭 FMQReleaseNotes
🔂 設定(S) 🛛 🔹	🗎 Mozilla Firefox	🕨 📅 Fiorano MQ 2008 🛛 🔸	👿 uninstall FioranoMQ 2008

Install Shield が自動的に実行され、次の問い合わせ画面が表示されますので、[はい]を選択します。

FioranoMQ1 2008 - InstallShield Wizard	1
Do you want to completely remove the selected application and all of its features?	,
<u>((ばい)()</u> いいえ(N)	

3. スクリプト ファイルの実行による方法

インスト-ル ディレクトリ (フォルダー) に格納されているスクリプトを実行します。

Widows 版

C:\Program Files\Fiorano\FioranoMQ9.0.1\u00e4uninstall.bat

Unix / Linux 版

%INSTALL_DIR%/uninstall.sh

アン インストールが完了しても、ログ ファイルは削除されません。

したがいまして、インストール ディレクトリの下には [FioranoMQ9.0.1] ディレクトリとサブ ディレクトリの一部が 存在したままとなります。不要な場合には、手動で削除してください。

6 FioranoMQ の起動

6.1 環境変数の設定

FioranoMQ サーバー (JMS サーバー) および各ツールは、次の環境変数を参照します。

- FIORANO_HOME
- FMQ_DIR
- JAVA_HOME

これらの環境変数は、インストール ディレクトリにある次のファイルで設定されています。

- fiorano_vars.bat (Windows の場合)
- fiorano vars.sh (Unix、Linux の場合)

これらの環境変数は、基本的に変更する必要はありません。

Unix 版の場合には、インストール時に設定します。詳細は、『2,2 Unix 版のインストール』を参照してください。

JRE を変更する場合

製品に同梱されている Sun JRE (version 1.5.0_16) 以外の JRE を使用する場合には、JAVA_HOME の値を使用する JRE が置かれているディレクトリに変更します。 JRE 1.5 以降のものを使用してください。

サンプル プログラムを使用する場合

FloranoMQ には数多くのサンプル プログラムが同梱されています。これらのサンプル プログラムを使用する場合には、コ ンパイルが必要となります。コンパイルには、JDK が必要となりますが、FioranoMQ には同梱されていません。サン・マイク ロシステムの web サイトなどからダウンロードしてください。

http://java.sun.com/javase/downloads/index.jsp

JDK のバージョンは、JRE のバージョンと適合している必要があります。デフォルトの JRE (FioranoMQ のインストール時 に展開された JRE) を使用する場合は、JDK 1_5 (バージョン 5) を使用してください。

使用する JDK は、環境変数 JDK_HOME に指定しておく必要があります。JDK_HOME も fiorano_vars.bat (foorano vars.sh) にエントリがあります。

例:SET JDK_HOME=C:¥Program Files¥Java¥jdk1.5.0_16 (Windows の例)

6.2 FioranoMQ サーバーの起動

FioranoMQ サーバー (JMS サーバー) は、次のいずれかの方法によって起動できます。

Windows の [スタート] メニューから起動 [プログラム] -> [Fiorano] -> [FioranoMQ 9.0.1] -> [Fiorano MQ Server]

スクリプト ファイルによる起動

Widows 版 C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1¥fmq¥bin¥fmq.bat

Unix/Linux 版 %INSTALL DIR%/fmq/bin/fmq.sh

6.3 FioranoMQ サーバーのシャットダウン

次のスクリプトによってシャットダウンします。

Widows 版 C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1¥fmq¥bin¥shautodpown-fmq.bat

Unix / Linux 版 %INSTALL_DIR%/fmq/bin/shaudown-fmq.sh

6.4 Studio の起動

FioranoMQ の管理ツール Studio は、次のいずれかの方法によって起動できます。

Windows の [スタート] メニューから起動 [プログラム] -> [Fiorano] -> [FioranoMQ 9.0.1 -> [Fiorano Studio] → [Fiorano Studio]

スクリプト ファイルによる起動

Widows 版 C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ9.0.1¥Studio¥bin¥ Studio.exe

Unix/Linux 版 %INSTALL DIR%/Studo/bin/studio.sh

Studio の起動が開始されると次の画面が表示されます。起動の完了まで、しばらく(数十秒)かかります。



Fiorano Studio は、前回の終了時に使用していたツールおよび開いていたウィンドウを記憶しており、起動時には前 回使用していたウィンドウを表示します。このため、起動ごとに表示されるウィンドウが異なることに注意してください。

はじめて Studio を起動した場合、Welcome ページが表示されます。

Welcome ページ

Fiorano Studio は、コンポーネント フローの構築以外にも、様々な管理機能を提供しています。これらの機能については、 Welcome ページに一覧されており、ここから実行することができます。

Welcome ページを表示させるには、メニューバーにある [ヘルプ] のプルダウン メニューから [Welcome Page] を選択 してください。

Welcome ページを閉じるには、ページの左上 (Studio のメニューバーの下) にあるタブ [Welcome] の x (閉じる) ボタ ンをクリックしてください。

FIORANO



6.4.1 FioranoMQ サーバーへのログイン

FioranoMQ サーバーの管理を行うためには、FioranoMQ サーバーにログインする必要があります。

1. [ログイン] ブラウザーの表示

ログインは、[ログイン ブラウザ] で行います。メニュー バーの [ウィンドウ] メニューから [ログイン ブラウザ] を選択してく ださい。



ログイン ブラウザーが現れ、サーバーがツリー表示されます。FMQ を右クリックし、プルダウン メニューから [Login] を 選択します。FMQ は、FioranoMQ サーバーの略称です。

E F	iorano Stu	idio					
ミラ	ァイル(<u>E</u>) 編	騙(E)) 表示(⊻)	ナビゲート(<u>N</u>)	ツール(工)	ウィンドウ(W)	ヘルプ(<u>H</u>)
		8	ا 📄 😫 ۲	<u>י</u> ר אר	ର ପ		
Ť]ログインフ	ブラウ	ቻ		۲	×	
アプラ	<u>↓</u> サーバ	10			_		
71			Login				
ō			Logout				
-			⊐ピ–©)		_		
			削除(<u>D</u>)				
			厭				
			Save Confi	gurations			
					_		

FloranoMQ サーバーが起動されていないとログインに失敗します。FioranoMQ サーバーを起動してから、ログインを実行してください。

FMQ にログインすると、次の画面のように管理オブジェクト、ログ設定 (Loggers)、セキュリティ設定などのオブジェクトがツ リー表示されます。



これらのオブジェクトに対して様々な設定や変更が行えるようになります。

次の画面は、一例として、ディストネーション (送信先) の中のキューを選択し、FMQ に存在しているキューの一覧を表示させています。さらに、一覧の中から PRIMARYQUEUE を右クリックし、キューに対して実行可能な管理操作をメニュー表示しています。

2.0	iorano Studio			
: 7	ァイル(E) 編集(E) 表示(V) ナビゲート(N) ツール(T) ウ	ハンドウW) ヘルプ(出))	
	i 🗄 🖉 🧯 🖆 📁 🎝 (* 🖉 🗎 i 🔯 🖉			
÷.	」エクスプロ-ラ ····×	👍 FMQ 🛛		∢▶▼
いし	FMQ 由] 🗢 🔹 🔿 🗸		
7	キューを選択	+1-		記述
6	□□		Primary communicat	tions Queue
_		B [®] JMX_CONNE	編集ACL	ieue
		₽ SYSTEM_DE	カット①	eue
	E Loggers	BU SECONDAR	⊐ピー(<u>C</u>)	Queue
	申 🏪 セキュリティ	JMX_SERVIC	ペースト(P) 、 ママ・ロレーナー	
	□證 スヌーパ		選択した 削除(D) 撮化 ノー・	イユーに対する
			2.前を恋面	T—
		_		
	キューの一見衣	示	プロデューステキストメッセージ	
			Subscribe/Receive	
			メッセージをブラウズ	

Studio を用いた管理操作の詳細については、製品マニュアルを参照してください。

6.5 サンプル プログラムの実行

サンプル プログラムは、インストール ディレクトリの下の fmq¥samples にカテゴリ別のサブフォルダーに分かれて格納されています。

ドキュメント

個々のサンプル プログラムの内容を説明したドキュメント (HTML 形式) が用意されています。 インストール ディレクトリ下の fmq¥samples¥readme.html をブラウズしてください。

6.5.1 サンプル プログラム実行用コンソールの起動

サンプル プログラム実行用のコンソール (FMQ Console) が用意されています。このコンソールは、次の方法によって起動 できます。

Windows の [スタート] メニューから起動

 $[\mathcal{J}\square\mathcal{J}\neg \mathcal{L}] \rightarrow [Fiorano] \rightarrow [FioranoMQ 9.0.1] \rightarrow [FioranoMQ Console]$

スクリプト ファイルによる起動

Widows 版

C: Program Files Fiorano Fiorano MQ9.0.1 fmq bin fmq-console.bat

Unix / Linux 版

%INSTALL_DIR%/fmq/bin/fmq-console.sh

FMQ Console が起動すると、次のコンソール ウィンドウが表示されます。



このコンソールは、サンプル プログラムのルート ディレクトリ (fmq¥samples) に自動的に移動します。

サンプル プログラムの例

以下の説明では、最もシンプルなサンプル プログラムであるポイント・ツー・ポイント (PTP) モデルのセンダーとレシーバー

を例にとって説明します。また、説明は Windows 版を基にしています。

このサンプル プログラムは、fmq¥samples¥PTP¥SendReceive に格納されています。

1. FMQ コンソールで、fmq¥samples¥PTP¥SendReceive に移動します。次のコマンドを入力します。

cd PTP/SendReceive

2. 続いて dir コマンドで、ファイルを一覧します。次のように表示されます。



SendReceive のサンプル プログラムには、3 つのソース フィルが用意されています。

QSender.java: 永続化 (persistent モード) で、キュー PRIMARYQUEUE にメッセージを送信 QReceiver.java: キュー PROMARQUEUE からメッセージを受信 NPQSender.java: 非永続化 (非 persistent モード) で、キュー PRIMARQUEUE にメッセージを送信

6.5.2 サンプル プログラムのコンパイル

サンプル プログラムのコンパイル用に、ライブラリのクラスパスなど必要な設定をしたスクリプト compile-client.bat (compile-client.sh) が用意されています。FMQ コンソールに次のコマンドを入力します。

start compile-client.bat QReceiver.java

(start compile-client.sh QReceiver.java)

次の画面に示すようなワーニングが表示される場合があります。

CA C:#WINDOWS#Systems2#cma.exe	×
注:Qreceiver.java の操作は、未チェックまたは安全ではありません。 注:詳細については、-Xlint:unchecked オブションを指定して再コンバイルしてください	-
C:¥Program Files¥Fiorano¥FioranoMQ2008¥fmq¥samples¥PTP¥SendReceive>_	

このワーニングが表示された場合は、Xlint:unchecked を指定します。

start compile-client.bat -Xlint:unchecked QReceiver.java

コンパイルのワーニングが表示されますが、無視してください。



QSender.java も同様にしてコンパイルします。

```
start compile-client.bat -Xlint:unchecked QSender.java
```

FIORANO

6.5.3 サンプル プログラムの実行

QSender と QReceiver のコンパイルが完了したら、run-client.bat (run-client.sh) スクリプトを用いて実行しま す。次のコマンドを入力して、QReceiver を実行します。

start run-client.bat QReceiver (start run-client.sh QReceiver)

QReceiver のウィンドウが表示され、リッスンしている状態であることが表示されます。



同様にして、QSender を実行します。

start run-client.bat QSender (start run-client.sh QSender)

QSender のウィンドウが立ち上がり、送信するメッセージ内容の入力待ちとなります。



送信するメッセージ内容を入力し、Enter キーを押します。

Created InitialContext :: javax.naming.InitialContext@1e97676
Looked up qcf fiorano.jms.runtime.ptp.FioranoQueueConnectionFactory@cfec48
Creating queue connection.
Creating queue session
Creating queue sender
Ready to send messages : Enter Q to Quit
Enter a Message to be sent : ABCDEFGHIJKLMN opgrstuvwxyz
Enter a Message to be sent :

この時点で QReceiver のウィンドウには、受信したメッセージが表示されます。

📾 C:¥WINDOWS¥system32¥cmd.exe - run-client QReceiver	
Parameters used by the sample ************************************	
To change any of the parameter, please use runclient QReceiver -queueName <queue> -qcf <qcf> -url <providerurl> жжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжжж</providerurl></qcf></queue>	
Created InitialContext :: javax.naming.InitialContext@13bad12 Creating queue connection Creating queue session: not transacted, auto ack Creating queue, subscriber Ready to listen for messages synchronously (blocking receive) Received : ABCDEFGHIJKLMN opgrstuvwxyz	

QSender を終了するためには、Q を入力し、Enter キーを押します。

QReceiver は、キーボードなどからのコマンド入力を受け付けるようにプログラムされていません。QReceiver を終了するためには、cmd.exe ウィンドウの閉じるボタンをクリックしてください。